

シルクロード終着の都から世界の非核平和を

アピール

私たち、核戦争に反対する医師の会（反核医師の会）は、“シルクロード終着の都から世界の非核平和を”をテーマに、2010年9月18日・19日に、遷都1300年の古都・奈良で「第21回核戦争に反対し、核兵器の廃絶を求める医師・医学者のつどい in 奈良」を開催、388人が集いました。

今年5月に開催されたNPT再検討会議では、140カ国が「核兵器禁止条約」を支持しました。さらに最終合意文書でも2000年の「核兵器廃絶への明確な約束」が再確認され、すべての国が「核兵器のない世界」の実現と維持のために、必要な枠組みを創設する特別な努力を行うことが必要であると確認されました。今や核兵器禁止条約の実現は世界の主流となっています。これは、市民社会が力を合わせた国際的な運動の成果です。

秋葉忠利・広島市長は8月6日の「平和宣言」で、非核三原則の法制化、「核の傘」からの離脱や核兵器禁止条約の交渉開始を求めました。核軍縮・廃絶のための5項目提案を訴える潘基文国連総長も、「核抑止力」論は幻想と明言しています。核兵器廃絶と核抑止体制の維持は、明らかに矛盾しています。しかし、菅直人首相は、8月6日の広島で「核抑止力」は必要と、国際世論に逆行する発言を行いました。核兵器廃絶の最大の障害は「核抑止」論、「核の傘」論です。

我が国は、平和憲法を生かし、核兵器や武力に依存しない安全保障政策へ転換すべきです。日本政府およびすべての政党に対して、核廃絶へのリーダーシップを発揮し、核兵器禁止条約のための交渉開始に向け、また北東アジア非核地帯条約のための交渉開始に向けて最大限の努力をすること、「非核三原則」を法制化することを求めます。

「核兵器のない世界」は今、私たちの手の届くところにあります。原発問題、基地問題、環境問題、気候変動、貧困問題、医療・福祉問題などあらゆる問題は核兵器と密接に結びついています。国内で、そして国際的にも、さまざまなNGOや運動にネットワークを広げ、核兵器禁止条約の締結に向け、2015年までには条約交渉が開始されるよう、さらなる運動と世論を盛り上げていきましょう。

**シルクロード終着の都から世界の非核平和を！
核兵器禁止条約の実現を！ YES WE CAN！**